

This is **AFS Effect**

異文化を体験し、世界とつながる。

AFS活動報告書 **2025**



ごあいさつ

第二次世界大戦終結から80年が過ぎ、世界各地では先の悲惨な大戦を忘れたかのような戦争や内戦がいたるところで起き、分断の時代に突入してしまいました。一方、地球温暖化は容赦なく私たちに襲い、AIの進化に人間が追い付けないなど、私たちを取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。日本の教育現場では、このような疾風の中でいかにグローバル人材を育成するのが急務となっています。

高校生の交換留学団体としてのフロントランナーであるAFS日本協会の強みとは何かを考える時、活動から学びを得るのは留学生だけではなく、留学生と接することで異なる文化や習慣に触れるホストファミリー、ホストスクール、地域コミュニティ、それを支えるボランティアです。

理事会は10年後の世の中を見据えた10代の交換留学や国際理解教育の進む方向性を「AFS JAPAN未来ビジョン」として策定しました。学校現場と連携して、日本の高校生や留学生がわくわくドキドキするプログラムをつくり、世界の次世代と繋がり、明るい未来を切り拓く団体として真摯に常に進化していきたいと思います。どうか皆さんの力を貸してください。



公益財団法人AFS日本協会
理事長 加藤 暁子

国際理解教育のフロントランナーとして—— 10年後を見据え取り組みを進めています

AFS日本協会は教育団体として、より公正で公平、平和で持続可能な世界を築く「アクティブ・グローバル・シチズン」を育てることをその使命と定義し、世界各地のパートナー、国内外の多くのボランティアと連携し、高校生の交換留学事業を中心として活動を続けています。

国際秩序は協力や融和を重視してきました。しかし、現実には対話ではなく武力侵攻によって現状を変えようとする動きも起きています。コロナ禍を機に人々の生活様式が変わり、デジタル学習の浸透やAIの進展など、学習環境を取り巻く環境も急速に変化しています。

先の予測が難しい世の中においてAFSはどのように貢献し続けられるか——AFS日本協会は10年後も「異文化・国際理解を基盤とする唯一無二の教育団体」として社会に貢献し続けるため、理事会のイニシアチブのもと、全国のボランティアと事務局が一丸となって指針を策定しています。

【AFS JAPAN未来ビジョン 主な取り組み(予定)】

- 学校との連携強化
- プログラムの多角化とさらなる価値向上
- 多様なボランティアの学びと成長の支援



ボランティア大会でも話し合いました





事業の概況

派遣事業

日本における派遣事業は1954年に始まり、今日まで途切れることなく続いています。長期プログラムでは日本の高校生が一学年間または一学期間、派遣先のホストファミリーや寮で生活しながら現地の高等学校に通学し、異なる文化や習慣に触れ、異文化交流を深めるプログラムです。2025年度は、35の国と地域へ264人を派遣しました。

短期プログラムでは、オンラインでの異文化学習と現地渡航を組み合わせ、サステナビリティやSTEMをテーマに学ぶ「AFS Global STEM Academies」にてインドとブラジルへ計5人を派遣したほか、外務省の「中南米対日理解促進交流プログラム」にてペルーへ5人の大学生を派遣しました。

受入事業

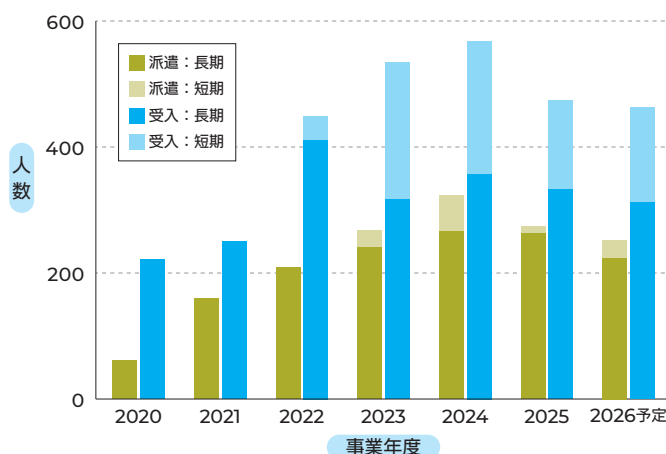
2025年度の年間受入事業では39の国と地域より166人、セメスター受入事業では16か国より68人、文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト+」では25の国と地域より100人、計334人を受け入れました。

短期受入事業においては、日本語研修プログラムで9か国より39人、文部科学省補助事業「異文化理解ステップアップ事業」で11か国・地域より23人、企業等の奨学金を含む秋短期通学プログラムで2か国より5人、外務省「対日理解促進交流プログラム」で中南米12か国より14人およびインドより20人、「インド次世代共創人材招へいプログラム」でインドより40人を招へいし、計141人を受け入れました。

1957年夏に短期プログラムによる受け入れを開始して以来、受入事業は国内における異文化学習の機会を推進する取り組みとして広く認知されています。近年は、受託事業を含む事業の多角化や、各参加者の満足度向上に重点を置いて取り組みを進めています。



プログラム規模の推移



派遣・受入生の数（累計）

約 45,000人

派遣生 22,990人 受入生 21,716人

日本と交流実績のある国・地域数

派遣 52か国 受入 108か国

日本における最新の登録ボランティア数

1,500人⁺

（2025年12月現在）

※登録ボランティア以外にも、多くの学校、ご家庭、教育関係者の皆さま、有志の方々にご協力をいただいています。



派遣事業



AFS Effect – Sending Programs

AFSの派遣事業に参加する生徒は、言語や生活習慣、学校、友人関係など、慣れ親しんだ環境とは異なる場所で、現地のボランティアやファミリーによるサポートを受けながら、共に生きる人々と理解しあい協力しあえる関係を築く努力を続けます。AFSのグローバルネットワークを活かして、さまざまな人々、価値観、文化に出会い、共によりよい社会を築いていくために必要な素地を育てています。

2025年の実績

〈長期〉(約1学年間)

▶年間プログラム

35か国・地域へ264名を派遣

〈短期〉(3か月未満)

▶対日理解促進交流プログラム

ペルーへ大学生5名を派遣

▶AFS Global STEM Academies

2か国へ5名を派遣



世界の多彩な国々が、学びと成長の舞台になっています



小原 遊さんのレポートより

2025年(72期) パナマ派遣

享受だけではなく、自分が提供もしている

“パナマでは色んな出会いがあった。家族や親戚、友達やその家族、またその友達などたくさんの新しい出会いに満ち溢れていた。私はたくさんの人に出会い、支えられて留学を良い経験にすることができた。ただ、それは決して享受だけでなく、自分が提供もしているということをファミリーが教えてくれた。

私の誕生日の夜ご飯の席で、日本のことを話していると、マザーが「あなたとこうやって文化を分かち合っているこの瞬間がとても素晴らしいものであって、留学生を受け入れる理由であり、受け入れてよかったと思えるの。」と言ってもらえた。そのとき、それまで私は留学というのは留学生が生活する中で感じたその国の文化を心で受け止めて学んでいくものだと思っていたが、逆も然りであるということに気づくことができた。

世界は広い。日本からパナマに行くのは1日程の時間がかかる。お金もかかる。時差は14時間ある。しかし、世界は狭い。留学に行ったことで、世界に友達ができ、もう一つの家族ができた。そして、色んな出会いを経て日本に帰ってくることができた。そうして今でもパナマと繋がれていられるのは、私たちが世界の広さを心の距離で補っているからなのだろう。留学に行ってきた。心からそう思っている。この経験が私の人生の起点になる。この10か月間パナマで学んだ全てを、これからの人生で生かしていきたい。”



山下 葵生さんのレポートより

2025年(72期) マレーシア派遣

「来てよかった」と心から思う理由

“留学先をマレーシアに決めた当初は、「アメリカやヨーロッパではないし、海外らしさをあまり感じられないかもしれない」と思っていたのが正直なところで、最初の一、二週間は毎日のように「帰りたい」「無理だ」と口にしていましたが、今ではすっかり生活に馴染み、観光客や現地人から自分がマレーシア人だと思われるほど現地に染まりました。



この10か月間で私はマレー語・中国語・英語の三つの言語を少しずつ話せるようになり、言葉の壁を越えて人とつながれるようになったことは何よりも大きな自信になりました。それ以上に、人との出会いが人をここまで変えるのだということを、身をもって知ることができました。最初は不安と緊張しかなかったこの留学生活が、今では「来てよかった」と心から思えるものになったのは、間違いなく出会ったすべての人たちのおかげです。この留学で得た出会いと学び、そして自分の中に生まれた変化を、これからの人生に必ず生かし、成長した姿をお見せできるよう努力を続けていきたいと思います。”



ラトビア派遣

“喜び、緊張、楽しさ、孤独……日本にいたら体験することのなかっただろうたくさんの感情に彩られたこの5か月間は、今まで過ごしてきたどの5か月よりも濃く、自分自身と

向き合った期間になっています。

帰国日までの日数が減り続けていることに寂しさを覚えつつも、楽しいが増えてきた今、残りの留学生活で何が待っているのか楽しみで仕方ありません。「自分も、周りの人も、笑顔でいっぱい的一年にする!」。この目標を胸に、毎日感謝して、大切に、そして全力で過ごしたいと思います。”



フィリピン派遣

“校外学習で公立小学校に行ったとき、現地の人たちの声を聴き、深く関わるためには英語だけではなく、現地語であるタガログ語を

学ぶ必要性を強く感じました。その後、タガログ語と英語を混ぜながら友達と会話するように心がけ、少しずつ会話の内容を理解できるようになってきました。5か月間の生活で得た気づきや学びは、これからの進路や将来の目標を考えるうえで大きな支えになると感じています。”



メキシコ派遣

“ホストファミリーとは、毎日たわいのない会話で笑い合っています。食卓はその日あった出来事や冗談でいつも賑やかです。メキシコに到着した日、緊張していた私をたくさんのハグで迎えてくれた瞬間、不安が安心へと変わりました。今ではこの文化が言葉以上に気持ちを伝えてくれる温かな習慣だと感じています。”

派遣生の体験談は
続々掲載中!

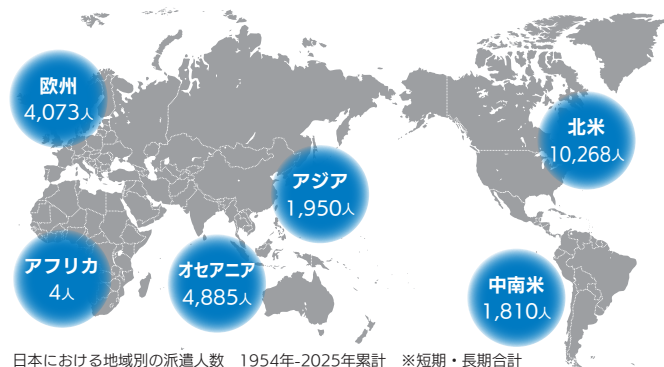


派遣先を問わず、学びを引き出すカリキュラム

AFSは世界的なネットワークで80年にわたり交換留学を継続してきた経験から、どの時期にどのような取り組みをすれば最も学びを引き出せるかを導き出し、留学前・プログラム体験中・帰国後のカリキュラム（オリエンテーション、Student Learning Journey※）をつくりあげました。AFSは現在、世界約50の国・地域に広がる各国パートナーが共通認識をもってプログラムを展開していますが、このカリキュラムはどの国に派遣される場合も同様に適用されています。グローバルネットワークにおける共通ガイドラインは、派遣先に関わらず有意義な学びを得ることが可能になっている大きな理由です。

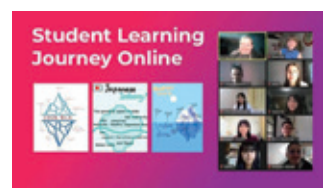


これまでの派遣先と規模



※AFS Student Learning Journey

AFSではすべての参加生が地域社会における直接的な体験とオンラインで国を超えた研修を交互に体験し、異文化への理解を深めます。出発前、留学中、帰国後の最も適切なタイミングで、その時々に必要な学びを提供しています。



【ご寄付のお願い】— 留学への挑戦を支える奨学金制度の拡充に向けて

ファミリーや学校にはAFS生を無償で受け入れていただいています。各国の物価上昇や航空券の値上がりなどに伴い、プログラム参加費は年々上がっています。

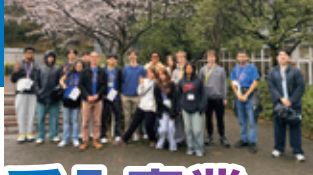
AFS日本協会は留学を志す生徒を応援するため奨学金の拡充に努めています。ぜひご協力をお願いいたします。(P.13)

寄付や助成で奨学金を設けていただくこともできます。広報募金室にご相談ください。bokin@afs.or.jp

2027年出発の年間派遣プログラム参加費

アメリカ	250万円
スイス・カナダ・ニュージーランド	230万円
ヨーロッパ（スイスを除く）	185万円
アジア・中南米	145万円

このほか、査証取得費（大使館までの交通費、指定病院での健康診断作成費を含む）、海外保険加入費用、事前・事後のオリエンテーション参加交通費、燃油サーチャージなど出入国手続きにかかる費用等で平均、50万円程度がかかっています。



受入事業

AFS Effect — Hosting Programs

受入事業は留学生自身の変化や成長はもちろん、留学生に関わる周囲の人々にも学びと変化をもたらし、日本国内の異文化学習を推進します。

留学生とファミリー、学校は、プログラムを通して出会い、共に暮らし、日常生活を重ねていくことで、かけがえのない関係性を築いていきます。留学生を受け入れたことがきっかけで留学を志したり、派遣生として子どもを送り出した経験から留学生を受け入れたり、派遣と受入の両事業の間には循環が生まれ、国を越えて人のつながりを広げています。

2025年の実績

〈長期〉

- ▶ **年間プログラム** (約1学年間)
39か国・地域から166名を受入
- ▶ **セメスタープログラム** (約半年間)
16か国より68名を受入
- ▶ **アジア高校生架け橋プロジェクト+** (約4か月間)
25か国・地域より100名を受入
※文部科学省補助事業



〈短期〉

- ▶ **日本語研修プログラム** (約1か月間)
9か国より39名を受入
- ▶ **短期通学プログラム** (約1か月間)
2か国より5名を受入
- ▶ **異文化理解ステップアップ事業** (約1か月間)
11か国・地域より23名を受入 ※文部科学省補助事業
- ▶ **対日理解促進交流プログラム** (約1週間)
中南米12か国より14名、インドより20名を受入
※外務省事業
- ▶ **インド次世代共創人材招へいプログラム** (約1か月間)
インドより40名を受入 ※外務省事業

【ひとつの出会いが、新たなつながりを生んでいます】

恩送りの気持ちで受け入れ

私たちの心をとても豊かにしてくれた時間

“我が家は子どもたちが小さいころから短期のホームステイを楽しんできました。3人の子もたちもホームステイ体験があります。「日本に留学したい子の長期ホストファミリーをして、その子のサポートを通して“恩送り”をしたい」と考えていたところ、息子の高校からホストファミリー募集の案内が届き、生徒を受け入れることにしました。

ハイミが我が家にきたのは5月下旬から。セカンドファミリーとして、8月下旬に帰国するまでの受け入れでした。ハイミは笑顔がとっても可愛い女の子で、進んで手伝いをしたり、何にでも積極的に取り組んだり、初めからとても気持ちよく一緒に生活することができました。受け入れている間には、様々な方から直接・間接的に、ハイミや我が家をサポートしていただきました。我が子たちも同じようにそれぞれの方々に支えられてきたであろうことがリアルに想像でき、胸がいっぱいになりました。振り返ると、ホストファミリーとして過ごした時間は、私たちの心をとても豊かにしてくれたと感じています。”

—ドイツからの留学生を受け入れてくださったファミリーより—



留学生に刺激を受け、自身も留学を決意

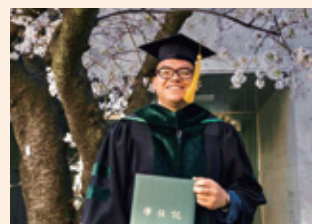
日本は私が第二の家族に出会い、生涯の友人を作った場所

“私のAFSとの旅は15歳の時、ドイツからの交換留学生がベネズエラの私の高校に来た時に始まりました。彼女がゼロから新しい言語を学ぶ姿を見て、私も挑戦的な交換留学をしたと感じ16歳の時、初めての国際便に乗り、日本に渡りました。

交換留学で学んだ最も大きな教訓の一つは、文化に善悪はなく、ただ違うだけだということです。他人を習慣で判断することは、世界の多様性を楽しむことを制限してしまいます。日本が第二の家族に出会い、生涯の友人を作った場所です。さらに、AFSの交換プログラムは、世界中の人々とつながる機会も提供してくれました。

異文化理解への情熱は日本での博士号取得へと私を導きました。現在は、日本の企業が多文化視点を管理に取り入れる支援を行うNPOで働いています。日本社会が新しい多文化的視点を受け入れる手助けをするために、重要な役割を果たすことを目指しています。”

—2018年にベネズエラから来日したアブラハムさんより—



時間をかけて「家族」になる

“メキシコの留学生と聞いて、色眼鏡でノリの良い子を想像していたら、とてもシャイな子が来たなあ、というのが第一印象でした。ホストファミリーの醍醐味は、異文化交流を24時間できることです。言語を飛び越えて、価値観や育ってきた環境が全然違うことを体感できる。日本の中で異文化に肌で触れるのはやっぱり違う。ホストファミリーをやって、ちょっと特別なことを日本にいる間に体験させてあげられたらいいなとは思いましたが、スタート時からすごく丁寧にとは考えていませんでした。なるべく自然にやっていたからこそアリアが帰った今は寂しいと感じています。”

ーメキシコからの留学生を受け入れてくださったファミリーよりー



“ホストファミリーは本当の家族ではないので「家族をする」ということから始めました。お願いしたり、い



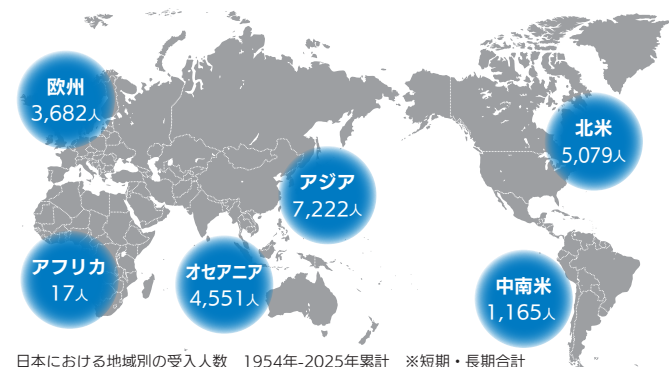
さめたりがあまりできず、どうしても手加減してしまう。でも、そういうのって子どもは敏感に感じるんですよね。小6の息子に指摘されて気づきました。それからは「娘にするようなことをする」を心がけて時間をかけて家族になっていけたかな。息子が葛藤やぶつかり合いがありながらも積極的に彼女と関わり、本当の姉弟のような関係が生まれたおかげで私たちも自然と家族になれたと感じています。”

ードイツからの留学生を受け入れてくださったファミリーよりー

ファミリー体験談も
続々掲載中!



これまでの受入国と規模



10代が安心して学べる環境づくり

Pre-Arrival Presentation

AFS生はみな、留学が決まってから出発するまでの間に現地でオリエンテーションに参加し、留学への心構えを育てます。Pre-Arrival PresentationはAFS日本協会がパートナー国と連携して新たに開始した追加的なオリエンテーションです。留学生が日本の学校生活への理解を深め、ホストファミリーやホストスクールなどと共により充実した体験を送れるよう、来日1か月前を目途にオンラインで実施されています。

到着後のオリエンテーション

留学生は、来日後すぐに2泊3日の一斉オリエンテーションに参加したのち、各地の支部に移動してホストファミリーとの共同生活を始めます。来日直後は異文化で始まる生活への緊張や長時間のフライトで疲れている生徒も多いため、支部に移動した後に、再度、地域ボランティアによるオリエンテーションが設けられることもあります。支部でのオリエンテーションは歓迎会を兼ねて実施されることも多く、地域の人々とのふれあいによって留学生の緊張がほぐれていく様子が見られます。



文部科学省補助事業である「アジア高校生架け橋プロジェクト+」では、各地の支部が実施する振り返りの時間に加えて帰国前オリエンテーションが盛り込まれており、生徒全員で日本での異文化体験の成果を共有、発表しあっています。テーマを決めて日本の高校生と共に話し合う時間もあり、日常生活を通じた学びに加えて、国内の10代にとっても有意義な体験となっています。



ボランティア活動

AFS Effect - Communities



AFSのボランティア自身が回答！ 「ボランティアになってついた力」

- 🌍 多様な文化を理解する力
- 👂 傾聴力・共感力
- ❤️ 言葉の奥にある想いをくみ取る力
- 🔄 状況の変化に対応する柔軟さ
- 🔥 情熱をもって伝える力

AFSが実践している交流事業の最大の特長は、10代の高校生の成長を身近に見守る応援団として、世界に約3万人のボランティアがいることです。日本でも約1,500人の登録ボランティアが常時活動しています。ボランティアはプログラムに参加している留学生やホストファミリーの日常を支え、相互理解の橋渡しをしたり、留学準備中の生徒をメンターとして支えたり、帰国後に体験から得た学びを実践に移す手助けをしたりしています。

異なる文化に生きる人々の相互理解を促すには、留学生に加え、ホストファミリー・ホストスクールの先生方など留学生に関わってくださる方々との信頼関係が欠かせません。AFSのボランティアは時間をかけて、留学生やホストファミリー、学校の先生方と対話を続け、相互理解を促していきます。一朝一夕で成るものではありません。時には忍耐強く見守り、変化を待ち、必要な働きかけを続ける必要があります。

生活の中で生まれる衝突やトラブルは、必ずしも文化の違いだけに起因するものばかりではありません。生徒一人ひとりの特性や家庭環境、多感な10代ゆえの心の揺れ動き、そのときどきの状況によっても左右されます。

ある程度の傾向はあっても、正解はないからこそ、ボランティア自身も目の前の人々に寄り添いながら、常に内省と学びを繰り返しています。

AFS ボランティアの「学びのコミュニティ」

AFSはボランティア同士がそれぞれの学びを共有し、互いを高め合える機会となるよう、さまざまな研修や交流の機会を提供しています。

AAI Online Volunteer Exchange

アジア・太平洋地域のAFSパートナーをつなぐネットワーク「AFS Asia-Pacific Initiative (AAI)」は、2025年から域内の交流促進を目的として、ボランティア同士がオンラインで話し合える「AAI Online Volunteer Exchange」を開始しました。各国・地域で活動するボランティアが月替わりで、活動内容やボランティアジャーニーの共有、各国の文化・言語などを紹介する企画です。

日本は「Rediscovering Everyday Japan — Beyond Stereotypes」と題して、ステレオタイプにとらわれない日本を「再発見」してもらうことを目指し、Sushi / 寿司、Rice / 米、Mountains / 山、Manga / 漫画を取り上げて、4人のボランティアが発表を行いました。



日本への関心の高さはネットワーク内でも群を抜いて高く、本交流会にもAAI域内の11か国・地域内外から100名を超えるボランティアの参加がありました。発表は、海外に住む人々が日本に対して抱いているイメージに寄り添いつつ、それぞれのトピックに付随する歴史や価値観を深掘りしていく形で進行し、多くの参加者が驚きや感心といったリアクションを次々と送り、交流会は大いに盛り上がりました。



AFSでは、国際的な交流はボランティア間でも「英語」を共通言語として実施されています。



日本でも、若手からベテランまで、スキルのある多くのボランティアが活躍しています！

| AFS Global Chapter Leadership Summit

2025年11月にスペインのマラガでAFSのボランティア活動を1年以上続けているリーダーを集めた国際研修が開かれました。世界各地から集まったAFSのボランティア約120人は、日頃の活動を紹介しあい、意義を確認し、いかにして多様なボランティアが共に10代の留学生のサポートを継続していけるかについて活発に意見を交わしました。AFSのボランティアは異文化理解の橋渡しをする役割を担っていますが、時に主張の異なる人たちの間で板挟みとなることもあります。今回のChapter Leadership Summitは、共に活動するボランティアのモチベーションの維持やプログラム参加者をサポートする際の有効な協力体制の築き方について考えました。日本からは6人のボランティアが参加し、帰国後、日本各地の定期会議や全国ボランティア大会（以下）などの場でボランティア仲間にも広く知見を共有し、サポート力強化につなげています。



【全国ボランティア大会】

2026年2月14日～15日、東京・代々木のオリンピックセンターにて日本各地で活動するAFSボランティアを対象とした「全国ボランティア大会」が開催されました。ボランティア大会はボランティア自身が企画・運営している集まりです。それぞれの日々の体験や学びを共有し、互いを高め合うため、2年に1回開催されています。

2026年のテーマは「ミライを描こう～AFSの魅力は無限大∞～」。

会場には全国各地から約170人のボランティアが集まり、矢野創さんによる基調講演「Fly Together, Explore Together ～異文化体験は宇宙探査の原動力～」や留学生らによるパネルディスカッション、分科会などを通して交流と学びを深めました。



矢野 創 (やの はじめ) さん

1984年に第31期AFS年間派遣プログラム生としてアメリカに留学。世界初の小惑星サンプルリターン探査機「はやぶさ」と後続機「はやぶさ2」で試料採取を担当するなど、三十余年間で約二十種類の日欧米の宇宙探査・実験に参画されている宇宙探査科学のスペシャリストです。現在は国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）・宇宙科学研究所にて宇宙探査研究と人材の育成にあたられています。

| パネルディスカッション

パネリストとして登壇した元受入生からは、ボランティアとして支える側に回っていること、参加生の成長を支える喜びが話されました。

“ボランティアをやる側になると、楽しい。嬉しいよりも、感動の気持ちの方が大きい。ことばにあらわせない。そういう気持ちはAFSで留学したからこそ。AFSでボランティアをしているからこそだと思う”

“留学中にお世話になったホストファミリーからもらった『いるだけでうれしい、成長を見られてうれしい』という一言から自分もボランティア活動を始めました”



パネリスト：

ニンさん（ミャンマー出身）
マヤさん（ドイツ出身）
ロラさん（イタリア出身）
アイスさん（タイ出身）

司会：

イスカさん（マレーシア出身）
イエスイさん（モンゴル出身）



ご講演の詳細・ボランティア大会についてはAFS WEBサイトでお読みいただけます

AFS ボランティア大会

検索

AFSでは年齢も性別も地域もこえて、人と人とのつながりが生まれています。これからも対話を通して共によりよい未来をつくっていけるよう、より多くの人々がAFS活動に加わってくれることを願っています。

AFSのさまざまな取り組みとプログラム

AFSは従来から継続している交換留学事業に加え、より多くの人が異文化学習に踏み出せるよう、さまざまな形でプログラムを提供しています。

学校が選べる&単位取得できるプログラム

AFS Global Choice オーストラリア・ホームステイプログラム

AFS日本協会とオーストラリア・タスマニア州政府が連携して実施するプログラムです。半年か1学年間、タスマニア州政府が認定した家庭にホームステイをしながら現地の公立高校に通います。人気の高いオセアニア地域への留学機会を提供するため2025年から募集が始まりました。



参考：2027年出発のプログラムの参加費 年間プログラム428万円、半年（セメスター）262万円

STEMをテーマにしたハイブリッドプログラム

AFS Global STEM Academies

サステナビリティやSTEM、ソーシャル・イノベーションをテーマに12週間のオンラインプログラムと4週間の実地プログラムで構成されるプログラムです。専門的な内容も含めてすべて英語で実施されていますが、日本は実施初年度の2023年から積極的な応募があり、2025年までに24人が参加しています。



“プログラム参加前は世界に飛び出す勇気が出ず、悩んでばかりいる毎日でしたが、本物の多様性に触れ、人間の普遍的な暖かさや思いやりに気付いたことで、自分が世界に対して感じていたハードルが大幅低くなりました。”

“STEMの現場に触れ、これまで知らなかった分野や新しい技術に出会えたことも大きな学びでした。ロボットエンジニアを目指す身として、現地での経験を活かし、今後も広い視点を持って学び続けたいと強く思いました。”

18歳以上を対象にした国際会議

AFS Youth Assembly

18～32歳の若手リーダーや社会起業家が世界各地から集まり、共に学び、交流し、行動を起こすことを目的に話し合う会議です。参加者が国を越えたつながりを継続し、気づきや取り組みを発展させていくことを目指しています。Youth Assemblyは、国連によって制定された国際青少年デー（8月12日）に合わせて毎年夏に開かれています。

日本からの参加者は年々増加中！

Youth Assembly

検索



Youth Assemblyへの参加を奨励するため、参加費や現地までの渡航費、現地宿泊費等の補助として、公益財団法人森村豊明会による助成金で「森村豊明会 Youth Assembly 奨学金」を設けています。2025年、2026年と継続して日本から3名に支給されています。様々な人に機会を開くため、国際本部による各種奨学金も設けられています。



支部のエンリッチメント

平和学習「ピーススタディ」

日本では全国約60の支部で世界50以上の国・地域から来る高校生を迎え入れています。平和学習「ピーススタディ」は異文化理解を目的に来日する各国の高校生に広島・長崎を訪れる機会を提供し、生まれた国に関わりなく共に平和を考える対話型の取り組みです。

平和学習を実施する支部は、派遣を予定している中高生にも積



極的な参加を呼びかけています。各参加者は事前学習を経て被爆地を訪問し、被爆体験者の講話や資料館の見学を通して学びを深めたのちに、それぞれの視点から感じたことを共有しています。平和学習には過去に平和学習に参加した元受入生を含めて経験を積んだボランティアがファシリテーターとして同席し、生徒の素直な気持ちに寄り添いながら対話を促しています。



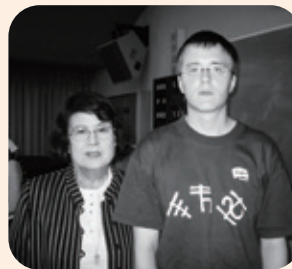
| 平和学習がその後の生き方に影響

ラグナル・ソルバルダルソンさん

“2002年AFSの交換留学生として広島を訪れた際、山岡ミチコさんにお会いしました。彼女は被爆者の一人で、原爆投下後の街の様子を私たちに語り、自分が経験したようなことを二度と誰にも味わわせたくないという思いを伝えてくれました。山岡さんとの出会いは私の心に深く残り、外交や国際関係の仕事に携わりたいという思いとなって、今につながっています。”

2002年にAFS生として来日。現在はアイスランド大使館 参事官として日本とアイスランドの交流促進に尽力されています。

2002年



2024年



“日本人は政治についてや深刻なトピックを話すことから逃げるような傾向が自分も含めてあると感じますが、恐れずに対話することが重要だと思いました。原爆と向き合うことは日本人である自分の一生の命題であると思いました。”

ー日本の参加者ー

AFS日本協会はこの先も平和学習を継続できるよう寄付を募っています。いただくご寄付は実施支部の拡大支援や事前学習教材の整備、ファシリテーター育成、運営調整費などに活用させていただきます。

ご賛同いただける方は広報募金室までご連絡ください。 bokin@afs.or.jp



AFS友の会

AFS友の会は有志の集まりです。AFSの活動に関心のあるすべての方を対象としてさまざまな催しを開いています。特に各界で活躍するAFSerをはじめ、よりよい社会を築こうと行動されている方々を招いた講演は新たな学びを得られる場として好評です。友の会の集まりは、どなたでもご参加いただけます。



講演会など、友の会の催しの案内を希望される方は、AFS友の会事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ：AFS友の会 事務局 E-mail: tomo@afs.or.jp

AFS友の会

検索

2025年度 事業・決算報告

Business and Financial Report

1. 資産の状況 (2025年12月31日現在)

(単位：千円)

流動資産	507,568	流動負債	236,540
固定資産計	709,699	固定負債	46,324
基本財産	359,605	負債合計	282,864
特定資産	330,872	正味財産	934,403
その他固定資産	19,223		
資産合計	1,217,267	負債及び正味財産合計	1,217,267

2. 損益の状況

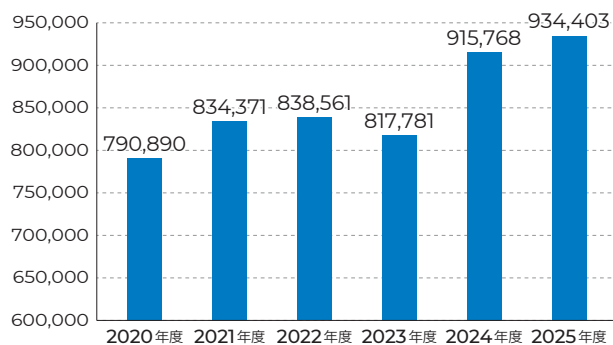
(単位：千円)

経常収益計	1,207,705	経常費用計	1,148,129
		経常増減額	59,576
		経常外増減額	0
		一般正味財産増減額	59,576
		指定正味財産増減額	△40,941
		正味財産増減額	18,635
		正味財産期末残高	934,403

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがあります。

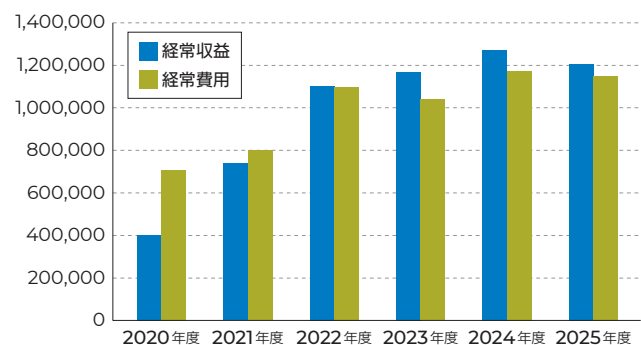
〈正味財産の推移〉

(単位：千円)

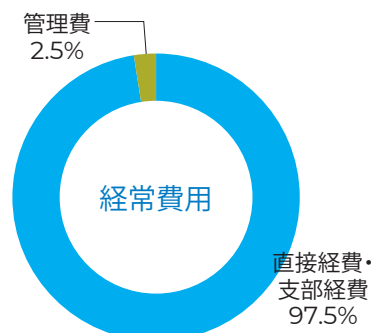
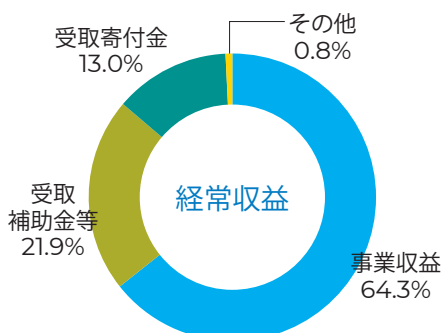


〈経常収益・経常費用の推移〉

(単位：千円)



〈経常収益・費用の内訳〉



直接経費：募集・選考、研修、留学生支援、渡航費、奨学金支給、受入国経費、国際本部経費他

管理費：ITシステム管理費、地域活動支援費、研修活動費、広報・募金活動費、人件費、オフィス賃料、光熱費他

3. 特定資産の活用状況

〈寄付受付中の基金〉

奨学金名	奨学金支給額 (一人あたり)	年度末残高 (円)					2025年度 支給決定数
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
AFS ボランティア奨学金	50万円	7,235,012	6,000,012	4,293,012	2,794,012	2,999,624	派遣：4
AFS どころ奨学金※ ¹	50万円＋ 留学準備金10万円	5,840,334	6,567,334	6,046,334	5,644,334	5,933,925	派遣：0
AFS 山形ふるさと奨学金	50万円	4,140,000	4,260,000	3,770,000	3,880,000	4,020,720	派遣：0
赤羽恒雄博士記念ながの 奨学金	100万円	—	5,192,979	5,095,879	4,095,879	3,095,879	派遣：1
AFS ひろしま奨学金	50万円	594,726	104,726	119,726	142,726	148,726	派遣・受入：0
NEXT50奨学金	プログラム 参加費一部	1,710,575	2,246,575	1,616,473	1,155,473	744,473	受入：0
YOSHI 基金	プログラム 参加費全額 (概ね280万円)	14,733,548	10,943,496	8,743,737	8,899,737	8,625,738	受入：1
AFS アフリカ奨学金	プログラム 参加費一部	—	—	—	560,000	804,000	受入：0

※¹：AFS どころ奨学金は、2026年以降、派遣生を対象として支給されています。またプログラム参加費を対象とした部分支援（50万円）とは別に留学準備金として10万円が給付され、1人あたりの支援額は60万円になりました。

〈寄付受付を終了した基金〉

奨学金名	奨学金支給額 (一人あたり)	年度末残高 (円)				2025年度 支給決定数
		2022年	2023年	2024年	2025年	
AFS 平和の鳩 プロジェクト	プログラム参加費全額 ＋留学準備金30万円	29,046,298	19,746,298	2,151,598	—	※ ¹
AFS 岐阜つながる 奨学金※ ²	20万円	—	10,000,000	7,800,000	6,400,000	2024年～2026年累計 派遣：24
AFS 災害支援金※ ³	一律7万円	—	—	1,445,303	1,445,303	派遣：0

※¹：基金残は規程に基づきAFS年間派遣プログラムの継続のため活用されます。2026年度以降、AFS ボランティア奨学金に組み入れられることが決まりました。

※²：AFS 岐阜つながる奨学金は故人の遺志に基づいて運用されている奨学金です。岐阜県から年間派遣プログラムに参加する生徒を対象に支給されています。

※³：「みちのく応援奨学金」の趣旨を受け継ぐ奨学金で、日本国内の自然災害の被害を受けたAFS生の留学費用を援助します。年間派遣プログラムが対象です。「みちのく応援奨学金」は東日本大震災ならびに福島原発事故により被災した地域のAFS年間プログラム参加生を対象とした奨学金で、2012年から2020年まで16名のプログラム参加を支援しました。

YOSHI 基金へのご寄付に感謝申し上げます

『YOSHI 基金』は米国ルイジアナ州に留学中に銃弾に倒れた服部剛丈さんのご両親の強い願いから1993年に生まれた基金です。日米の人々が文化の違いを乗り越え理解を深められるよう、米国の高校生に日本の日常生活を体験する機会を提供しています。1994年から2025年までに34名のアメリカの若者が『YOSHI 基金』による奨学金を受給し、AFSプログラムを通して日本の生活を体験してきました。『YOSHI 基金』は剛丈さんの傷害保険を原資として設立され多くの方々からご寄付をいただいてきましたが、設立から30年以上が経過し、基金の残高減少が課題となり、AFS日本協会は服部夫妻やAFS-USAと協力し、基金を今後5～10年継続させることを目標に、2025年秋より寄付を呼びかけてきました。おかげさまで、2026年3月1日までに『YOSHI 基金』には総額1,537万円を超えるご寄付が集まりました。『YOSHI 基金』にいただいたご寄付は、これまで同様、アメリカから来日する高校生を対象としたAFS交換留学プログラムの参加費、ならびに剛丈さんのご両親との面会、旭丘高校での交流会への参加にかかる交通費に充てられます。



ご寄付で実施させていただきました AFS 平和の鳩プロジェクト

AFS 平和の鳩プロジェクトは、1962～1963年、AFS年間派遣プログラムの9期生として渡米された方が「人生に大きな影響を与えたAFSの留学体験を次の世代につなぎたい」という思いを託して下さったことで成立した奨学金事業です。2020年派遣から2024年派遣までの5年間に計25人の海外留学を志す高校生の挑戦を応援しました。各奨学生は留学先で出会った人々と過ごす中で得た学びを糧に、それぞれの道で活躍しています。



ご寄付を活用させていただいています KOKO 基金

KOKO基金は、AFS年間派遣プログラム第4期生（1957-1958）の今里直子さんのご遺志をもとに2008年に設立された基金です。基金名は今里さんの愛称“KOKO”にちなんで名づけられました。人と人とのつながり、歴史を積み上げていくことがいかに大切かを身をもって示して下さったKOKOさんの功績をたたえ、日本におけるAFS活動のあゆみと歴史を後世に伝えるために活かされています。



ご支援に感謝申し上げます

Thank you for your support!

2025年度は、AFS活動全体を支える「AFS活動支援寄付」と使途を決めた「奨学金寄付」に合計1億3千万円を超えるご寄付を頂戴いたしました(2025年1月1日～2025年12月31日)。

| AFS活動支援寄付

2025年度はAFS活動全体へのご支援をお受けする「AFS活動支援寄付」に2,731万円のご寄付をいただきました。この中には支部を指定したご寄付も含まれています。AFS活動支援寄付は草の根でAFSの事業を支えるボランティアの活動費をはじめ、全国各地の支部と情報を共有するための基盤整備、参加者によりよいプログラム体験を実現するための研修などに活用をさせていただいています。

| 奨学金寄付

2025年度はAFSのプログラムに参加する国内外の若者を支援する「奨学金基金」に計1億1,010万円のご寄付をいただきました。奨学金はプログラム参加にかかる費用負担を軽減することで、優秀で意欲ある生徒の学びを支えています。プログラムに参加する高校生を増やすことは生徒を支える周囲の人々にも学びの機会を拡げることにもつながっています。

| 企業・団体による奨学金

多くの企業・団体がAFSプログラムを対象とした奨学金を設けてくださっています。

(五十音順)

対象	奨学金名	支援企業・団体
派遣	イトーヨーカドースカラシップ	ITO FOUNDATION U.S.A.
派遣	オデッセイIT奨学金	株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ
派遣	高校生国際体験プログラム	公益財団法人 公文国際奨学財団
派遣	JBS海外留学奨学金	日本ビジネスシステムズ株式会社
派遣	ソニーグループ国際教育基金	ソニーグループ国際教育基金
派遣	田口福寿会AFS留学生奨学金	公益財団法人 田口福寿会
派遣	東海東京財団留学奨学金	一般財団法人 東海東京財団
派遣	長岡市米百俵財団 高校留学奨学金	公益財団法人 長岡市米百俵財団
派遣	新潟市国際交流協会高校生海外留学奨学金	公益財団法人 新潟市国際交流協会
派遣	城西グリーンシュート奨学金	福岡城西ロータリークラブ
派遣	三菱商事高校生海外留学奨学金	三菱商事株式会社
派遣	リジェネロン・サイエンス・スカラシップ	リジェネロン・ジャパン株式会社
受入	ジンテック奨学金	株式会社 ジンテック
受入	明治ブルガリア奨学金	株式会社 明治
受入	Mitsui Resources International Scholarship / Akito Sumibo Scholarship (※)	mitsui resources pty.ltd.

※：AFSパートナーへの寄付事業。現地組織とAFS日本協会が共同でプログラムを実施しています。

| 寄付者表彰 これまでに受賞された方々 (賞別五十音順・敬称略、故人を含む) (2026年6月現在)

企業・団体

栄誉功労賞 三菱商事株式会社
特別功労賞 田中産業株式会社／一般財団法人 東海東京財団／日本ビジネスシステムズ株式会社
功 労 賞 ホクセイプロダクツ株式会社

個人

栄誉功労賞
名誉功労賞 (WEB版では非開示とさせていただきます)
特別功労賞
功 労 賞

以下の方々にも賞を贈呈させていただきました。ご希望により賞の内容については非開示とさせていただきます。

株式会社オデッセイコミュニケーションズ／株式会社明治

(WEB版では個人名は非開示とさせていただきます)

匿名希望 1団体・22名

| 紺綬褒章への推薦

「紺綬褒章」は国の褒章制度のひとつで、公益のために私財（1回の寄付額が、個人500万円以上、企業・団体1,000万円以上）を寄付した方に授与されます。AFS日本協会は2023年9月に内閣府賞勲局より公益のために私財を寄付された個人・団体に授与される紺綬褒章の公益団体の認定を受けました。対象となられた方にはAFS日本協会よりご連絡を差し上げます。

| 寄付者芳名

寄付や助成、物品等で奨学金や活動をご支援いただきました。

ソニーグループ国際教育基金／一般財団法人 東海東京財団／日本ビジネスシステムズ株式会社／三菱商事株式会社／株式会社 明治／Lucena Philanthropy／リジエネロン・ジャパン株式会社

株式会社IHI／インサイド・トラベル・グループ・リミテッド／AFS友の会／一般財団法人 片山哲記念財団／株式会社ジンテック／公益財団法人 田口福寿会／トーケミ産業有限会社／公益財団法人 新潟市国際交流協会／福岡城西ロータリークラブ／ホクセイプロダクツ株式会社／ホクセイ金属株式会社／株式会社ほくいていホールディングス／公益財団法人 長岡市米百俵財団／公益財団法人 森村豊明会／The UK Online Giving Foundation (Benevity)

愛知学院大学／あいほら医院／株式会社明石スクールユニフォームカンパニー／明石東ロータリークラブ／有限会社赤塚工業／株式会社アクシス／Amazon／イオン旭川駅前店、イオン尾道店、イオンスタイル奈良、イオンもりの里店／イオンリテール イオンつくば／株式会社いかりスーパーマーケット／医療法人石井会石井病院／医療法人康和会 中沢クリニック／医療法人山下医院／株式会社イト・ビー／NCカード株式会社／FM福山／表千家山下茶道教室／鶴嶺会(別府鶴見丘高校同窓会)／株式会社カナイ／賀茂鶴酒造株式会社本社／河合石灰工業株式会社／公文式三原宮浦教室／グローバル・グループ／香節庵茶道教室／Sakura International／全国農業協同組合連合会栃木県本部(JA 全農とちぎ)／敷島堂ファイル／株式会社静岡新聞社／静岡放送株式会社／島工業株式会社／下野市国際交流協会／ジャパンだるまツアー／株式会社ジョイフル・アーツ／上毛電気鉄道株式会社／株式会社新進／住信SBIネット銀行インターネット募金／生協法人大阪高齢者生活協同組合／相互電業株式会社／大智院／チャンピオンスポーツ／中部電力パワーグリッド株式会社／株式会社 坪井塗工／NAO税理士法人／株式会社奈良クラブ／有限会社 成田工務店／西脇医院／日本ハウズイング株式会社 大阪支店／日本耐酸塩工業株式会社／株式会社ノブ／株式会社パリュブックス／英語通訳ガイド ピースボランティア／医療法人社団三思会ひかりクリニック／美容室いちび／株式会社ファンドクリエーション／一般財団法人北海道青少年科学文化財団／ほしの歯科／マックスパリュ別府店／前橋商工会議所女性会／丸屋仏壇店／眼鏡工房・凜／矢橋ホールディングス株式会社／やまだ屋／有限会社コア商事／湯河原珠算専修会／リンゴ・インスティテュート／株式会社ワコール

AFS12期有志／AFS27期有志／大分中部支部有志／関西学生部有志一同／田原由美子他有志一同／東京城北支部有志／兵庫県支部有志

東京都港区ふるさと納税 利用者

個人のみなさま 2025年1月～12月までの主な寄付者の皆さま（年間の寄付金総額が1万円以上の方）（敬称略）

（WEB版では非開示とさせていただきます）

海外からのご支援にも感謝申し上げます。（敬称略）

Thank you for your contributions to AFS Japan via donation through AFS International in 2025.

その他多くの方よりご寄付を頂戴しております。ご支援に心より感謝を申し上げます。

ご寄付をいただきました際のお名前でご表記しております。万一、記載に不備やお気づきの点がありましたら、誠に恐縮ですが広報募金室(bokin@afs.or.jp)までご連絡ください。



AFS日本協会事務局からのお知らせは、主にメールでお届けします。住所・メールアドレスのご変更は右記2次元コードまたは下記URLにアクセスいただき、ご連絡いただきますよう、お願いいたします。



<https://www.afs.or.jp/about-afs/connect/>
(AFSとつながる)

ホストファミリー、ボランティア活動にご関心のある方はお気軽にご連絡ください



公益財団法人
AFS日本協会
UNESCO オフィシャルパートナー

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-18-16 クロスポイント虎ノ門6階
E-mail info@afs.or.jp

AFS日本協会

検索

www.afs.or.jp

@afsjapan @afsjapan @afs_japan AFS Japan

SUSTAINABLE DEVELOPMENT **GOALS**



AFSは「持続可能な開発目標(SDGs)」をサポートします。

AFSは、国連が2030年に向けて採択した「持続可能な開発目標(SDGs)・世界を変えるための17の目標」のうち、目標4と目標16の実現に向けて行動しています。

発行日 2026年7月31日
編集発行 公益財団法人AFS日本協会
デザイン・印刷 株式会社佐伯コミュニケーションズ